

# 第 2 章 現状と課題

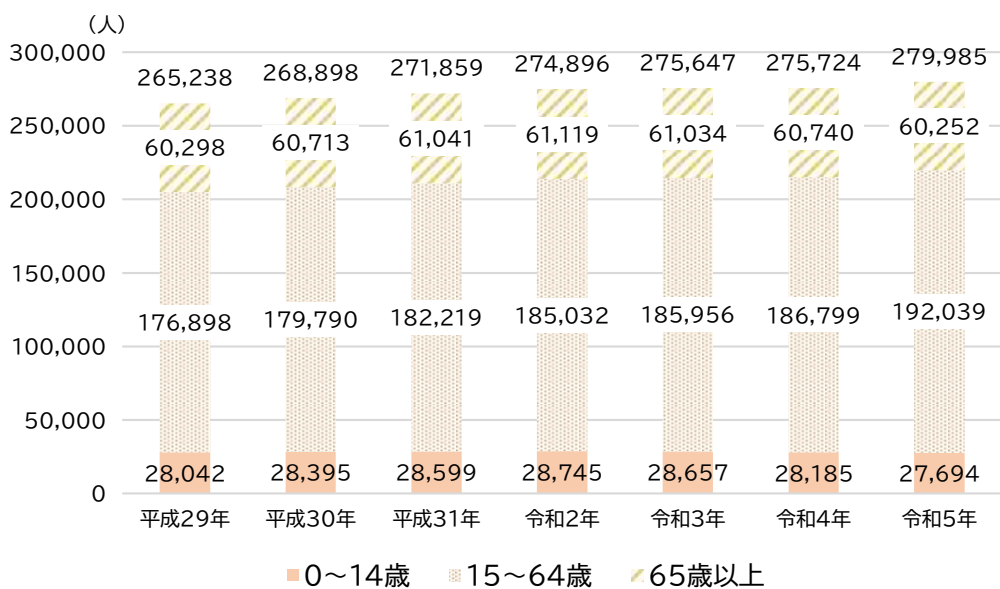


## 1 本区の人口動向

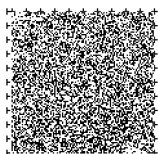
### (1) 年齢3区分別人口の推移

本区では、人口は近年右肩上がりで推移しており、令和5年で279,985人となっています。  
年齢3区分別で見ると、0～14歳と65歳以上については、令和2年まで増加していましたが、以降は減少しています。一方、15～64歳人口については増加が続いています。

■ 年齢3区分別人口の推移



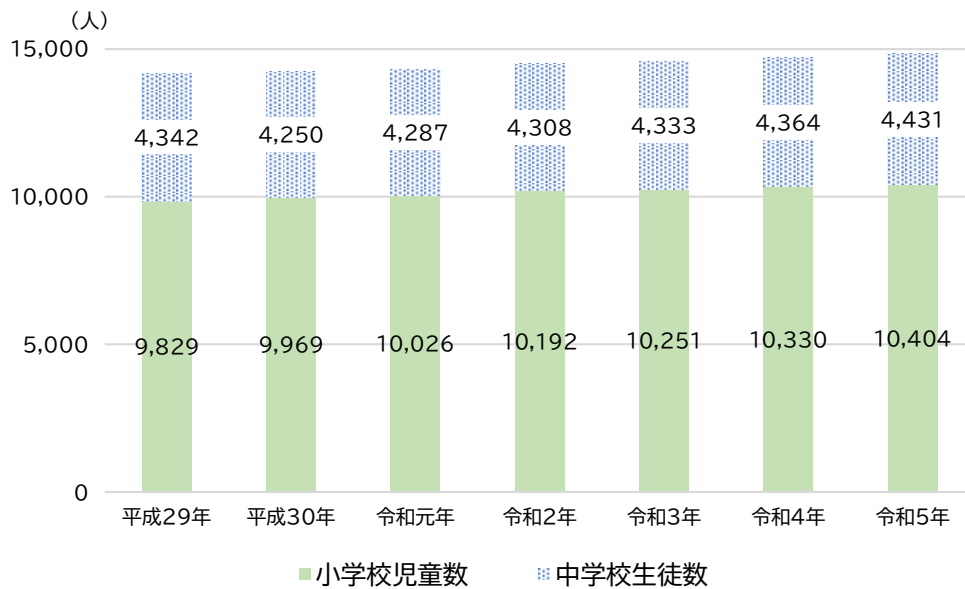
※住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査(総務省)(各年1月1日現在)



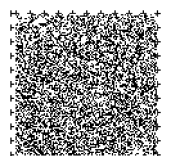
## (2)児童数・生徒数の推移

本区の公立小中学校における児童数・生徒数をみると、小学校児童数は近年右肩上がりで推移しており、令和5年で10,404人となっています。中学校生徒数も概ね増加傾向にあり、令和5年で4,431人となっています。

### ■児童数・生徒数の推移(公立)



※学校基本統計(東京都)(各年5月1日現在)



## 2 本区のスポーツ施設の状況

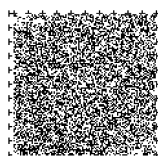
### (1)屋内スポーツ施設

令和6(2024)年3月現在

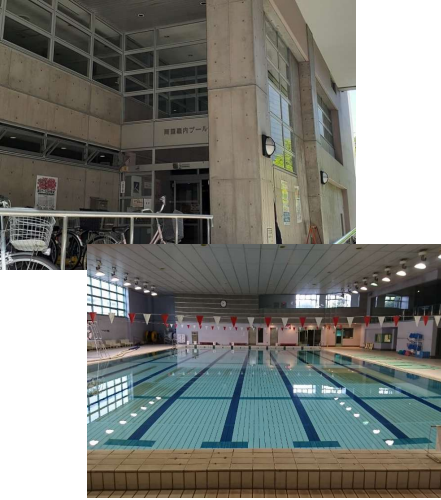
	施設名	所在地
①	墨田区総合体育館	錦糸4-15-1 錦糸公園内
②	両国屋内プール	横網1-8-1
③	スポーツプラザ梅若	墨田1-4-4
④	すみだスポーツ健康センター	東墨田1-6-1
⑤	墨田区総合運動場	堤通2-11-1
⑥	弓道場	江東橋4-1-3 豎川第一公園内
⑦	立花体育館	立花1-25-10

#### ①墨田区総合体育館

	規模	鉄骨造 地上5階建て 延べ床面積 19,837㎡	
	主な施設	メインアリーナ (2,280㎡)	・バスケットボール3面、バレーボール4面、 バドミントン12面、ハンドボール1面 ・観客席(固定席1,064席、可動席500席)
		サブアリーナ (1,064㎡)	・バスケットボール1面、バレーボール2面、 バドミントン6面 ・観客席(固定席436席)
	武道場	・柔道場、剣道場各2面(兼用時4面・多目的利用可) ・観客席(固定席252席)	
	屋内プール	・25M×7コース、幼児用プール、ジャグジー、 採暖室 ・観覧席(固定席200席)	
	トレーニング室	・各種トレーニングマシン一式	
	屋上施設	・多目的競技場(アーチェリー(50M)兼フットサル等の競技場) ・多目的広場(フットサル等)	
	その他	・スタジオ2室、ランニングコース、総合更衣室、 温浴施設、会議室3室、幼児遊戯室、カフェ、 売店、屋外体育施設管理事務所など	

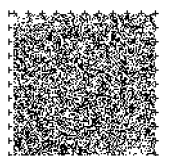
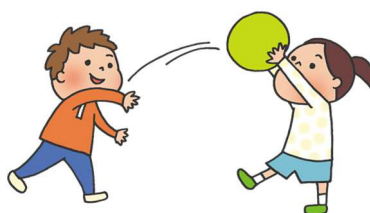


## ②両国屋内プール


	規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上5階・地下1階建て 延べ床面積 8,448.02㎡ ・両国屋内プール 4,552.93㎡ ・両国中学校施設 3,895.09㎡
	主な施設 温水プール	・25M×15M、7コース ・水深可動床(深さ0.5M~1.6M)通常は1.1Mに設定
	その他	・観覧席(164席)、ラウンジ、ロビー

## ③スポーツプラザ梅若

	規模	鉄筋コンクリート造 地上7階建ての1、2階部分 延べ床面積 1,998.79㎡
	主な施設 体育館(670㎡)	・バレーボール1面、バドミントン3面、バスケットボール1面、卓球台12台
	トレーニング室	・各種トレーニングマシン一式
その他	・体力測定室、会議室等	

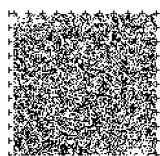


#### ④すみだスポーツ健康センター

	規模	鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上3階建て 延床面積 4,126.32㎡	
	主な施設	温水プール	・流水プール(円周約90M)、25Mプール、 子どもプール、ジャグジー、ウォータースライダー
		トレーニング室	・各種トレーニングマシン一式
		その他	・観覧コーナー、プールサイドテラス、レストラン等

#### ⑤墨田区総合運動場


	規模	観覧場:鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上2階建て セミナーハウス:鉄骨造 地上3階建て 延べ床面積 2,742.03㎡ ・観覧場 865.75㎡ ・セミナーハウス 1,876.28㎡	
	主な施設	陸上競技場	・300Mトラック×6レーン、110M直走路 ・インフィールド(人工芝)(4,176㎡)、 フットサルコート3面、少年サッカーコート1面
		観覧場	・観覧席(固定席405席)、観覧場会議室
		セミナーハウス	・会議室、調理室、多目的室、トレーニング室、 宿泊室、浴室

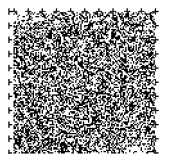


## ⑥弓道場

	規模	鉄骨造 平屋建て 延べ床面積 326.85㎡	
	主な施設	射場	・6人立ち
		その他	・更衣室(男女)、観覧スペース

## ⑦立花体育館

	規模	鉄筋造 延べ床面積 758.31㎡	
	主な施設	体育館 (525㎡)	・バレーボール1面、ミニバスケットボール2面、 バドミントン2面、卓球5台
		その他	・更衣室男女各1室、シャワー男女各1室



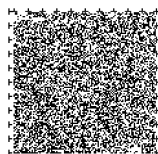
(2)屋外スポーツ施設

令和6(2024)年3月現在

種類	数	施設名	所在地
野球場	20面	錦糸公園野球場(2面)	錦糸4-15-1
		八広野球場(1面)	八広6丁目地先
		墨田野球場(5面)	墨田4丁目地先
		荒川四ツ木橋緑地野球場(2面)	墨田4・5丁目地先
		鐘淵野球場(1面)	墨田5丁目地先
		荒川四ツ木橋緑地少年野球場(4面)	東墨田3丁目地先
		東墨田公園少年野球場(2面)	東墨田3-4-14
		隅田公園少年野球場(1面)	向島5-6-13
		江戸川河川敷野球場(2面)	三郷市新和4丁目地先
庭球場	14面	錦糸公園テニスコート(4面)	錦糸4-15-1
		文花テニスコート(3面) <sup>※1</sup>	文花1-32-9
		緑町公園テニスコート(1面)	亀沢2-6-4
		東墨田テニスコート(2面)	東墨田3-19-6
		堤通公園テニスコート(2面)	堤通1-8-1
		大横川親水公園テニスコート(2面)	緑4-22、江東橋一丁目8番先
競技場	3面	墨田競技場(2面) <sup>※2</sup>	墨田4丁目地先
		荒川四ツ木橋緑地競技場(1面)	墨田4丁目地先
球技場	4面	荒川四ツ木橋緑地球技場(1面)	墨田4丁目地先
		鐘淵球技場(1面)	墨田5丁目地先
		荒川四ツ木橋緑地少年サッカー場(2面)	東墨田3丁目地先

※1 文花テニスコートは、本所在地に再整備を予定している。

※2 墨田競技場は、単独施設ではなく、野球場との併用施設である。



### (3)学校体育施設

区では、学校教育に支障のない範囲で、区立小・中学校の体育施設を開放しており、スポーツの場として利用することができます。

令和6(2024)年3月現在

#### 小学校(25校)

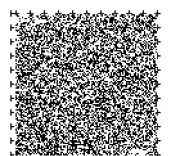
学校名	所在地
緑小学校	緑 2-12-12
外手小学校	本所 2-1-16
二葉小学校	石原 2-1-5
錦糸小学校	錦糸 1-9-12
中和小学校	菊川 1-18-10
言問小学校	向島 5-40-14
小梅小学校	向島 2-4-10
柳島小学校	横川 5-2-30
業平小学校	業平 2-4-8
両国小学校	両国 4-26-6
横川小学校	東駒形 4-18-4
菊川小学校	立川 4-12-15
第三吾孺小学校	八広 2-36-3
第四吾孺小学校	京島 3-64-9
第一寺島小学校	東向島 1-16-2
第二寺島小学校	東向島 4-30-2
第三寺島小学校	東向島 6-8-1
曳舟小学校	京島 1-28-2
中川小学校	立花 5-49-4
東吾孺小学校	立花 4-22-11
押上小学校	押上 3-46-17
八広小学校	八広 5-12-15
隅田小学校	墨田 4-6-5
立花吾孺の森小学校	立花 1-18-6
梅若小学校	墨田 2-25-1

#### 中学校(10校)

学校名	所在地
墨田中学校	向島 4-25-22
本所中学校	東駒形 3-1-10
両国中学校	横網 1-8-1
豎川中学校	亀沢 4-11-15
錦糸中学校	石原 4-33-14
吾孺第二中学校	八広 4-4-4
寺島中学校	八広 1-17-15
文花中学校	文花 1-22-7
桜堤中学校	堤通 2-19-1
吾孺立花中学校	立花 5-48-2

#### 旧学校(2校)

学校名	所在地
旧隅田小学校	墨田 5-49-5
旧向島中学校	東向島 4-18-9





### 3 アンケート結果からみる状況

墨田区スポーツ推進計画の策定にあたり、区民のスポーツに関する実態・意識等を把握するため、また、関係団体・施設の運営状況等を把握するため、「墨田区スポーツ・運動に関するアンケート調査」を実施しました。

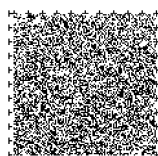
#### ■アンケート実施概要

項目	区民※	区民(障害のある方)
調査対象者	区内に居住する18歳以上の方 (無作為抽出)	障害者手帳をお持ちの18～79歳の方 (無作為抽出)
調査期間	令和5年1月17日(火) ～2月5日(日)	令和5年1月18日(水) ～2月5日(日)
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式	郵送配布・郵送回収による本人記入方式

※障害のある方向けの調査と対象者が重複しないよう抽出を行った。

項目	団体	施設
調査対象者	区内で活動する スポーツ関係団体	区内の公立スポーツ施設
調査期間	令和5年1月20日(金) ～2月5日(日)	令和5年1月20日(金) ～2月5日(日)
調査方法	電子メールまたは郵送での配布・回収 による直接記入方式	電子メールでの配布・回収による 直接記入方式

項目	区民	区民(障害のある方)	団体	施設
配布数	2,000件	1,000件	39件	5件
有効回収数	759件	424件	28件	5件
有効回収率	38.0%	42.4%	71.8%	100.0%

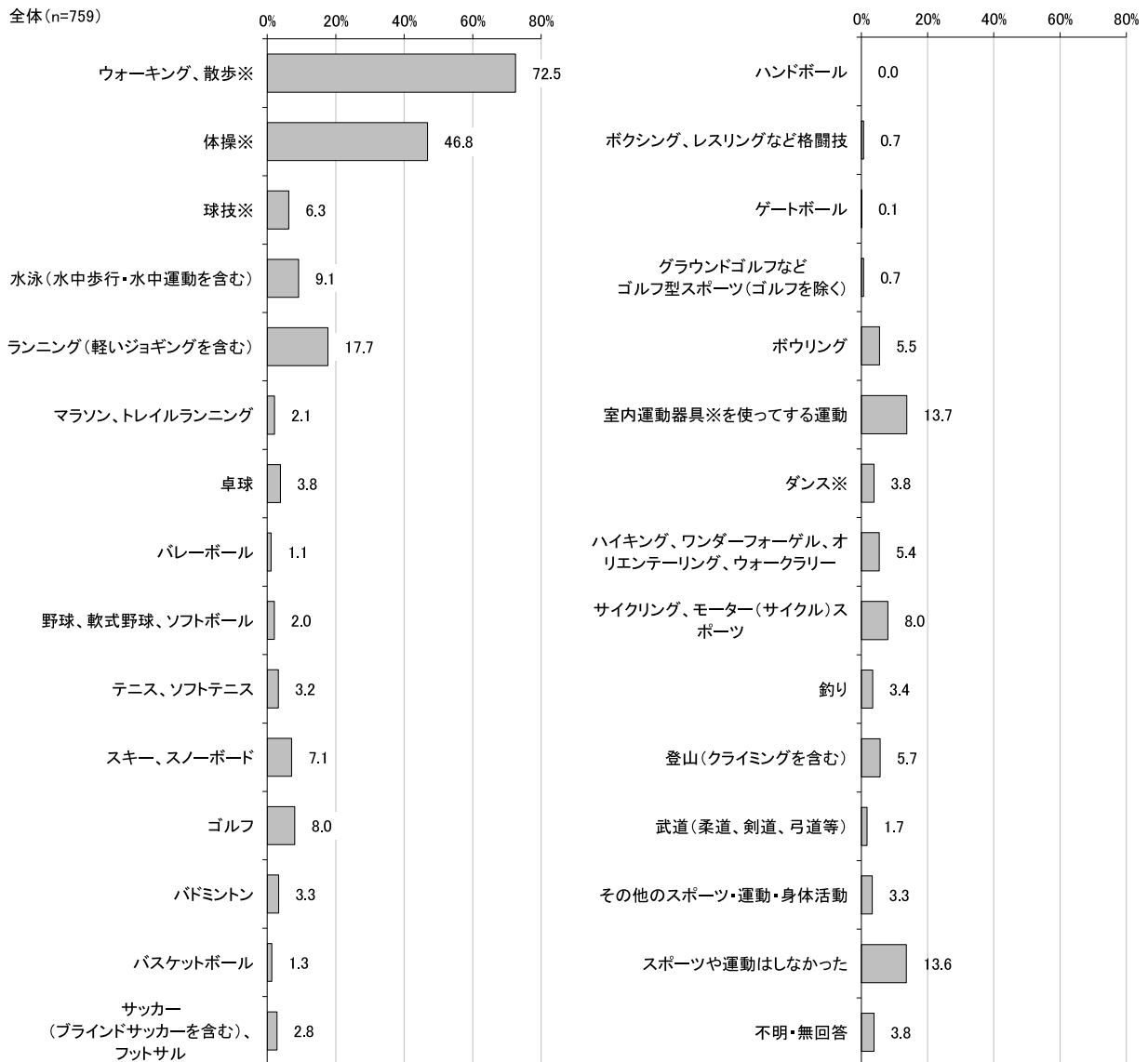


(1)スポーツの実施状況(年齢別)

全体では、直近1年間にスポーツを全く行っていない層も1割以上いる

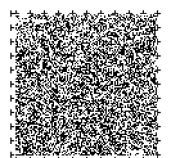
全年齢をまとめてみると、「ウォーキング、散歩」や「体操」をはじめとして、様々なスポーツが実施されていますが、その一方、「スポーツや運動を実施しなかった」方も13.6%と一定以上存在しています。

■直近1年間のスポーツ実施状況(複数回答)



※区民調査

※印のついている種目については、調査時に下記のような説明を付した。  
 ウォーキング、散歩: 散策、ペットの散歩、意識的な階段利用などを含む  
 体操: ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エクササイズ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳び、腕立て伏せやスクワットなど筋力トレーニングを含む  
 球技: 競技として行うものは除く。ボール等を用いた軽い運動や、ポッチャなど  
 室内運動器具: ウェイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど  
 ダンス: ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊り、車いすダンスを含む



30代以下では、実施割合は高いが頻度は高くなく、時間・きっかけや情報の不足が課題

---

30代以下は、直近1年間にスポーツや運動をしなかった割合(非実施割合)が7.7%と比較的低く、多くの人が何らかのスポーツや運動を実施していますが、実施した層の中で週1日以上実施した割合は約6割にとどまっています。

スポーツをする上での支障(次ページ参照)としては、「時間がない・きっかけがない」が約7割と突出していますが、2番目に多い「どこで何ができるかわからない」も3割を超え、他年代より高くなっています。区内の各施設の認知状況としても、多くの施設で8割～9割程度の方が「知らない」としています。

---

40～50代では、情報は一定程度取得されているが、時間・きっかけの不足は30代以下と同様

---

40～50代においても、直近1年間の非実施割合が約1割と比較的低く、多くの人が何らか実施していますが、実施した層の中で週1日以上実施した割合は6割台半ばにとどまっています。

スポーツをする上での支障としては、「時間がない・きっかけがない」が6割台半ばと突出しています。2番目に多い「どこで何ができるかわからない」は23.3%と、30代に比べて低くなっています。

---

60代以上では、情報は一定以上取得されている一方、他年代に比べて実施状況は二極化の傾向

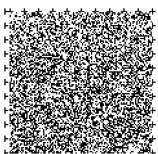
---

60代以上は、直近1年間の非実施割合が2割強と比較的高くなっています。一方、実施した層の中で週1日以上実施した割合は7割強と比較的高く、他年代に比べて二極化の傾向がみられます。

スポーツをする上での支障としては、「時間がない・きっかけがない」が23.3%と他年代を大幅に下回る一方、「特にない(スポーツをしようと思っていない場合も含む)」が約3割と最も高くなっています。区内の各施設について「知らない」とした割合は他年代を大幅に下回っています。

実施頻度が低い層(週1日未満)では、その頻度の低さの理由として、忙しさを挙げた方が他年代と同じく最も多い一方、次いで体調や体力の不安を挙げた方が2割弱と多くなっています。

---

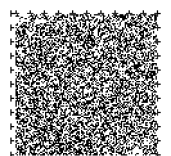


■スポーツを実施する上で支障になっていること(複数回答)

単位: %		時間がない・きつかけがない	参加したいスポーツ教室・大会・イベントなどがない	どこで何ができるかよくわからない	技術・能力・体力面で不安があり、イベント等に参加しづらい	コロナ禍で活動できる場所・機会が減った	区内の公共スポーツ施設が不足している・予約が取れない	区内の公共スポーツ施設の質(設備など)が低い	区内の公共スポーツ施設の使い勝手(予約方法・利用時の制限など)がよくない
全体(n=759)		51.3	10.4	23.3	14.6	14.9	10.1	2.0	5.9
性別	男性(n=326)	49.4	9.2	19.6	12.9	16.6	13.8	2.8	6.7
	女性(n=413)	54.0	11.4	26.2	16.7	14.3	7.5	1.5	5.3
年齢別	30代以下(n=182)	68.1	12.1	30.2	15.9	11.0	10.4	2.7	3.3
	40~50代(n=309)	65.7	12.9	23.3	13.9	17.8	11.3	1.9	6.8
	60代以上(n=249)	23.3	6.0	17.7	15.3	14.9	8.8	1.6	6.8

単位: %		住んでいる地域にスポーツ施設(民間含む)が充実していない	体に障害があってもスポーツを行える環境がない	体に障害があっても行えるスポーツ・運動について情報が少ない	障害について周囲から理解を得られない	その他	特になし(スポーツをしようと思っていない場合も含む)	不明・無回答
全体(n=759)		8.3	1.2	2.0	0.7	5.5	18.3	6.7
性別	男性(n=326)	9.5	1.8	2.1	0.3	3.4	21.5	4.3
	女性(n=413)	7.3	0.7	1.9	1.0	7.3	16.2	6.5
年齢別	30代以下(n=182)	6.6	0.5	1.1	0.0	6.0	9.9	0.5
	40~50代(n=309)	11.0	1.0	1.9	1.3	5.5	14.9	2.9
	60代以上(n=249)	6.0	2.0	2.8	0.4	4.8	29.3	12.9

※区民調査



(2)中学生期のスポーツ実施状況別にみる各種の状況

中学生期の実施状況により、その後の実施状況や意向についても違いがみられる

中学生期にスポーツを「行っていた」層と「あまり行っていなかった」層とを比べて各種の状況の違いをみると、「直近1年間に週1日以上実施」の割合は、中学生期に「行っていた」層で7.5ポイント高くなっています。また、直近1年間の実施が週1日未満だった方について、その理由をみると、中学生期に「あまり行っていなかった」層では、「スポーツ・運動が好きではないから」「特に理由はない」の割合が5～10ポイント程度高くなっています。

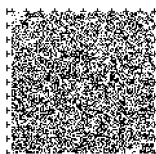
また、現在の実施状況には差がある一方、「運動不足を感じる」割合はほぼ差がない状況であることから、中学生期に「あまり行っていなかった」層では、運動が必要という意識水準が相対的に低い可能性が考えられます。

■中学生期のスポーツ実施状況別にみた各種の状況の違い(%)

中学生期の スポーツ実施状況	「直近1年間に 週1日以上実施」	「直近1年間の実施が週1日未満」の理由		「運動不足を感じる」*
		「スポーツ・運動が 好きではないから」	「特に理由はない」	
行っていた (n=451)	63.2	1.9	4.4	82.3
あまり行っていなかった (n=176)	55.7	8.3	13.9	82.4

\*:「大いに感じる」と「ある程度感じる」を合わせた割合

※区民調査

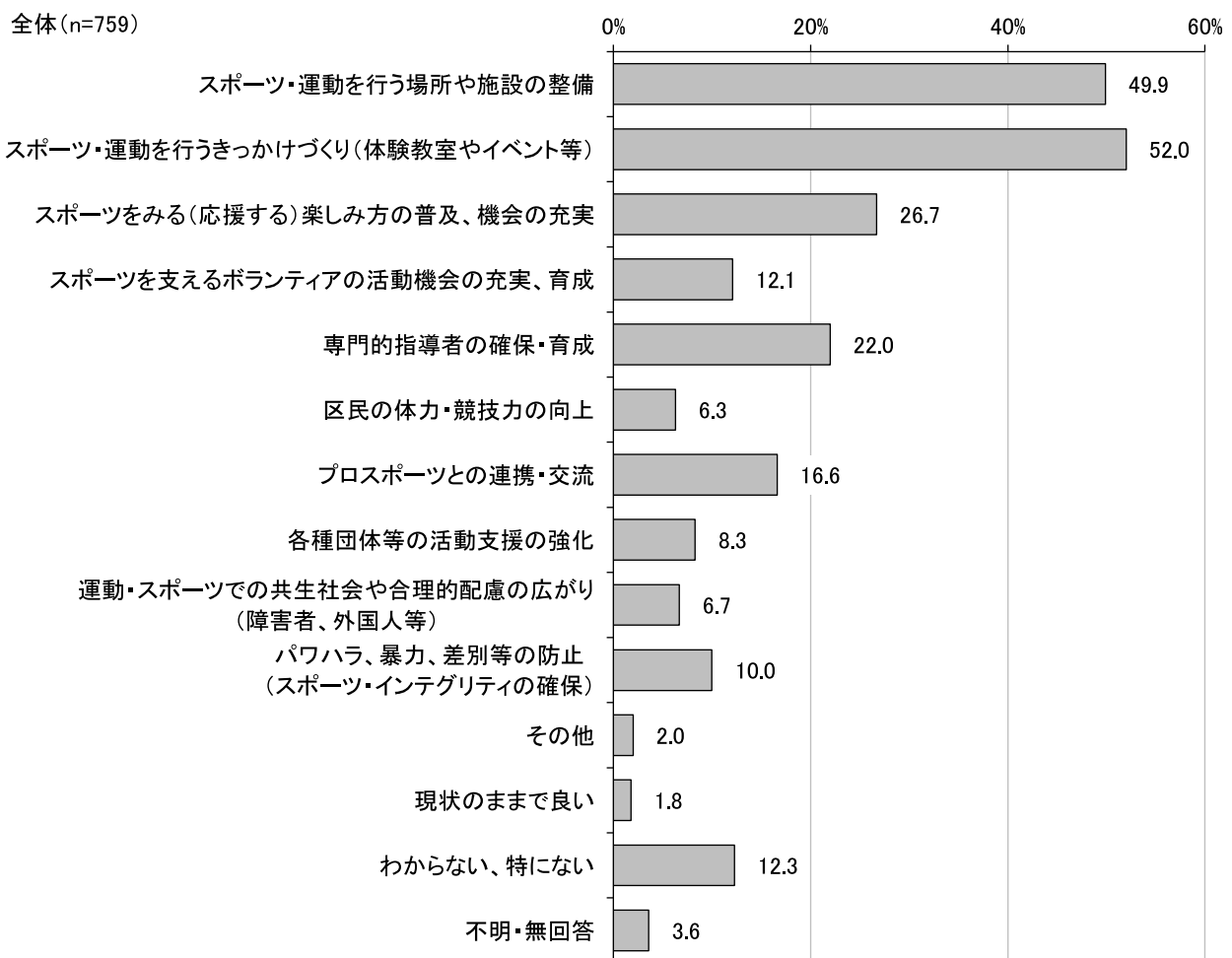


### (3) 大切だと思う取組

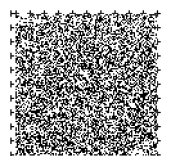
スポーツが盛んになるために「場所や施設の整備」が大切との声が多い一方、施設認知度は低調

特に大切だと思うこととしては、「スポーツ・運動を行うきっかけづくり」に次いで「スポーツ・運動を行う場所や施設の整備」が49.9%と多くなっており、実施環境の整備も重要視されている状況です。一方、特に若年層を中心として、区内の施設の認知度は必ずしも高くなく、30代以下では多くの施設で8～9割の方が「知らない」としています。

#### ■ 区でスポーツがもっと盛んになるために特に大切だと思うこと(3つまで選択)



※区民調査



(4)スポーツの実施状況(障害のある方)

実施状況には二極化がみられ、実施頻度が低い層では身体面の不安等が理由になっている

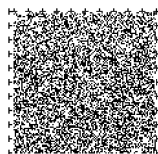
障害のある方においては、「スポーツや運動を実施しなかった」方は20.3%と、その他区民(13.6%)に比べて高くなっています。一方、実施した層の中では、週1日以上実施した割合は7割を超え、また週3日以上実施した割合は4割を超えており、二極化の傾向がみられます。

実施頻度が低い層(週1日未満)では、その頻度の低さの理由として、「活動したいが、身体的にできない」が32.1%と最も高くなっています。年齢別でみると、30代以下では「活動したいが、時間がない」が30.0%と最も高くなっています。

■実施頻度が週1日未満だった理由(複数回答)

単位: %		い活動したいが、身体的にできない	なス活動したいが、身近なところが	ポ活動したいが、自分に合ったス	や活動したいが、一緒にスポーツ	活動したいが、時間がない	その他	活動したいと思わない	不明・無回答
全体 (n=137)		32.1	6.6	11.7	12.4	19.0	10.9	18.2	13.1
性別	男性 (n=63)	36.5	3.2	6.3	9.5	19.0	11.1	20.6	11.1
	女性 (n=65)	29.2	7.7	15.4	12.3	16.9	12.3	18.5	13.8
年齢別	30代以下 (n=30)	10.0	10.0	10.0	20.0	30.0	0.0	16.7	23.3
	40～50代 (n=30)	33.3	6.7	10.0	16.7	20.0	13.3	16.7	16.7
	60代以上 (n=69)	43.5	2.9	11.6	4.3	11.6	15.9	21.7	5.8

※区民(障害のある方)調査



実施上の支障が「特にない」層が多く、実施イメージのない方も多いと考えられる

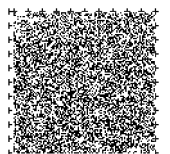
スポーツをする上での支障としては、「特にない(スポーツをしようと思っていない場合も含む)」が24.3%と最も高くなっており、実施するイメージのない方が多いと考えられます。一方、50代以下では「時間がない・きっかけがない」、また30代以下では「どこで何ができるかよくわからない」も高くなっています。

■スポーツを実施する上で支障になっていること(複数回答)

単位: %		時間がない・きっかけがない	参加したいスポーツ教室・大会・イベントなどがない	どこで何ができるかよくわからない	技術・能力・体力面で不安があり、イベント等に参加しづらい	減った コロナ禍で活動できる場所・機会が	区内の公共スポーツ施設が不足している・予約が取れない	区内の公共スポーツ施設の質(設備など)が低い	区内の公共スポーツ施設の使い勝手(予約方法・利用時の制限など)がよくない
全体 (n=424)		17.2	9.0	16.0	16.5	11.8	4.7	2.4	4.5
性別	男性 (n=207)	17.4	6.8	13.5	16.9	15.0	6.8	2.9	4.8
	女性 (n=167)	19.8	13.2	21.0	19.2	10.8	2.4	1.2	4.2
年齢別	30代以下 (n=88)	27.3	14.8	25.0	21.6	18.2	8.0	3.4	9.1
	40～50代 (n=94)	26.6	17.0	18.1	19.1	16.0	5.3	2.1	3.2
	60代以上 (n=194)	10.3	3.6	12.4	15.5	9.3	3.1	1.5	3.1

単位: %		住んでいる地域にスポーツ施設(民間含む)が充実していない	体に障害があってもスポーツを行える環境がない	運動に障害があっても行えるスポーツ・運動について情報がない	障害について周囲から理解を得られない	その他	特にない(スポーツをしようと思っていない場合も含む)	不明・無回答
全体 (n=424)		5.4	10.4	12.3	7.1	5.7	24.3	16.7
性別	男性 (n=207)	6.3	11.6	13.0	4.8	7.7	29.5	9.2
	女性 (n=167)	6.0	9.6	14.4	12.0	4.8	22.8	10.2
年齢別	30代以下 (n=88)	8.0	10.2	10.2	12.5	4.5	22.7	4.5
	40～50代 (n=94)	8.5	8.5	14.9	12.8	5.3	21.3	6.4
	60代以上 (n=194)	4.1	11.9	14.4	3.6	7.7	30.4	14.4

※区民(障害のある方)調査



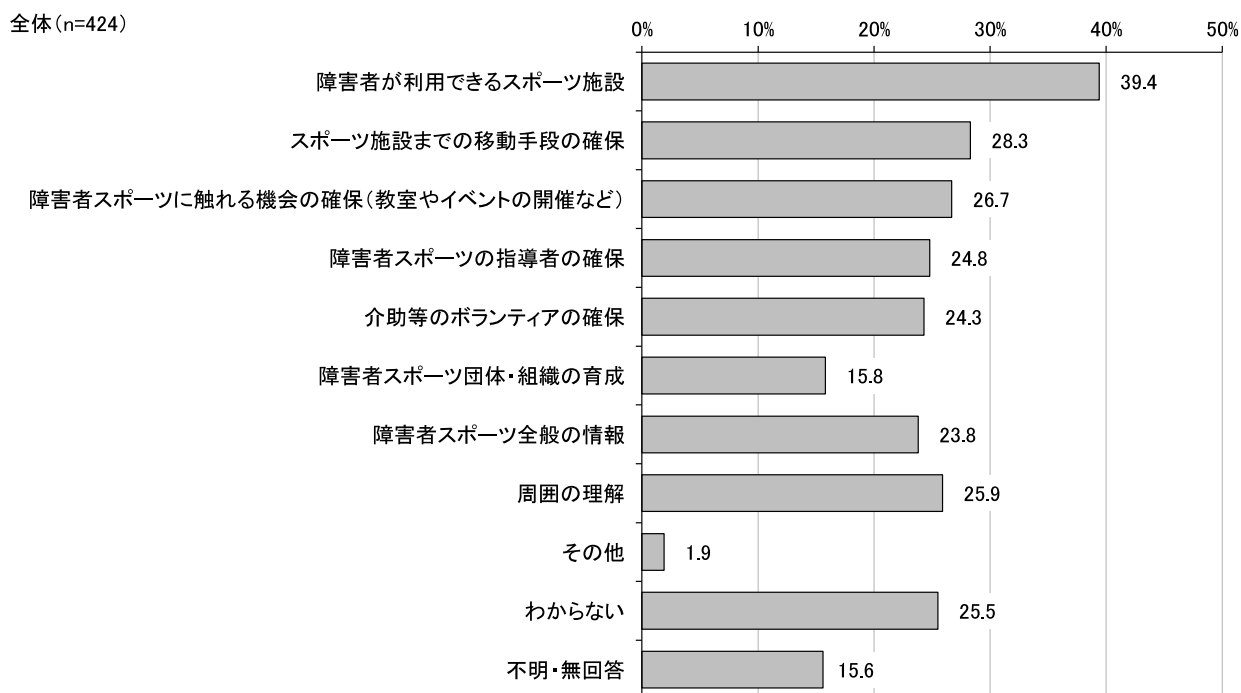


(5)障害のある方がスポーツを行う上で必要だと思うこと

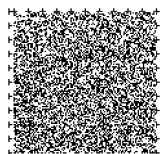
「障害者が利用できるスポーツ施設」や各種の支える活動などが必要視されている

障害のある方の意見として、障害者がスポーツを行う上で必要なものは「障害者が利用できるスポーツ施設」が39.4%と最も高く、次いで「スポーツ施設までの移動手段の確保」が28.3%、「障害者スポーツに触れる機会の確保」が26.7%となっています。また、介助等のボランティアや障害者スポーツの指導者など、支える活動の担い手も必要視されています。

■障害のある方がスポーツを行う上で必要だと思うこと(複数回答)



※区民(障害のある方)調査

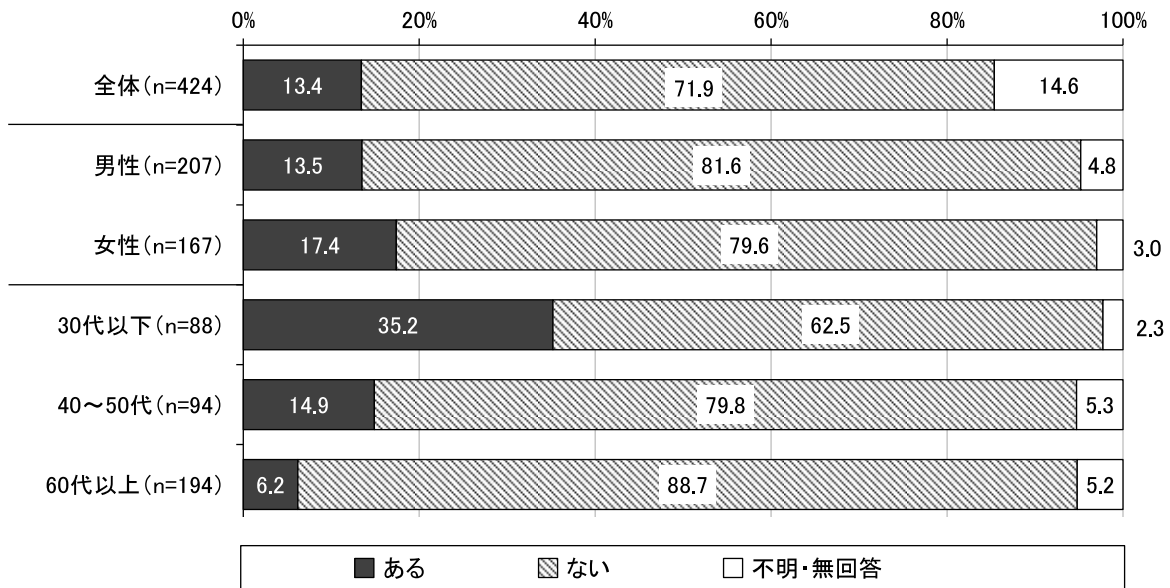


## (6)障害者スポーツの体験率

障害の有無にかかわらず、体験率は低調であり、特により高齢の層で顕著に低い

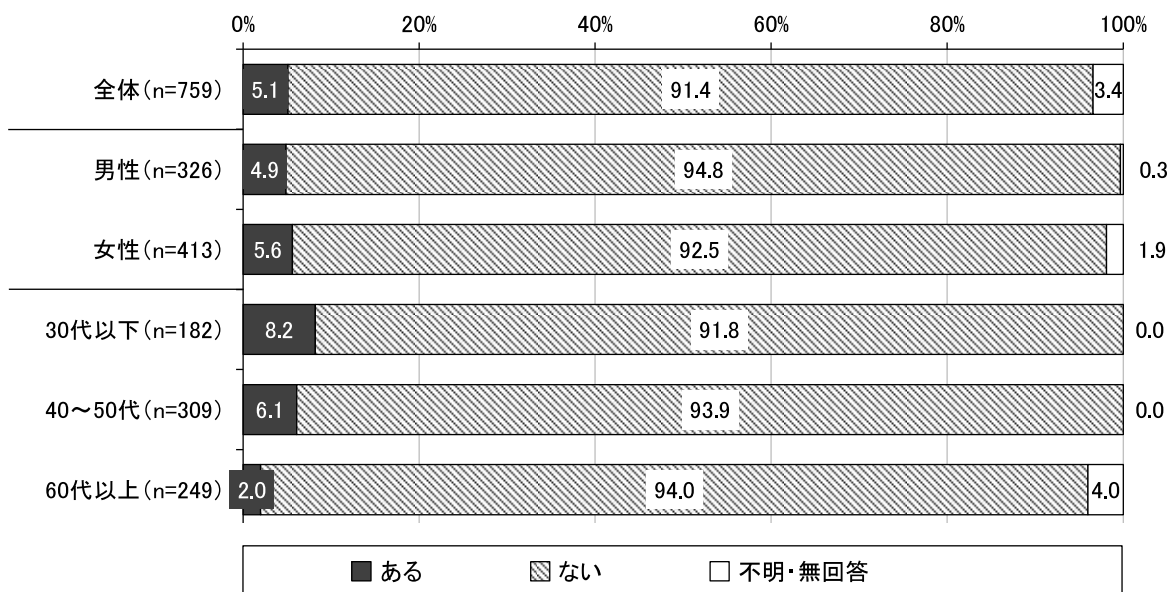
障害者スポーツ(車いすテニスやボッチャ等)を体験したことがない割合は、障害のある方において71.9%、その他区民では91.4%となっており、障害の有無にかかわらず体験率は低調な状況です。障害のある方においては、年齢別で見ると、30代以下では体験率が35.2%と比較的高くなっています。

### ■障害者スポーツを体験したことの有無(障害のある方)

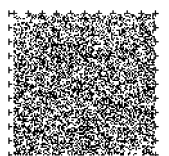


※区民(障害のある方)調査

### ■障害者スポーツを体験したことの有無(その他区民)



※区民調査



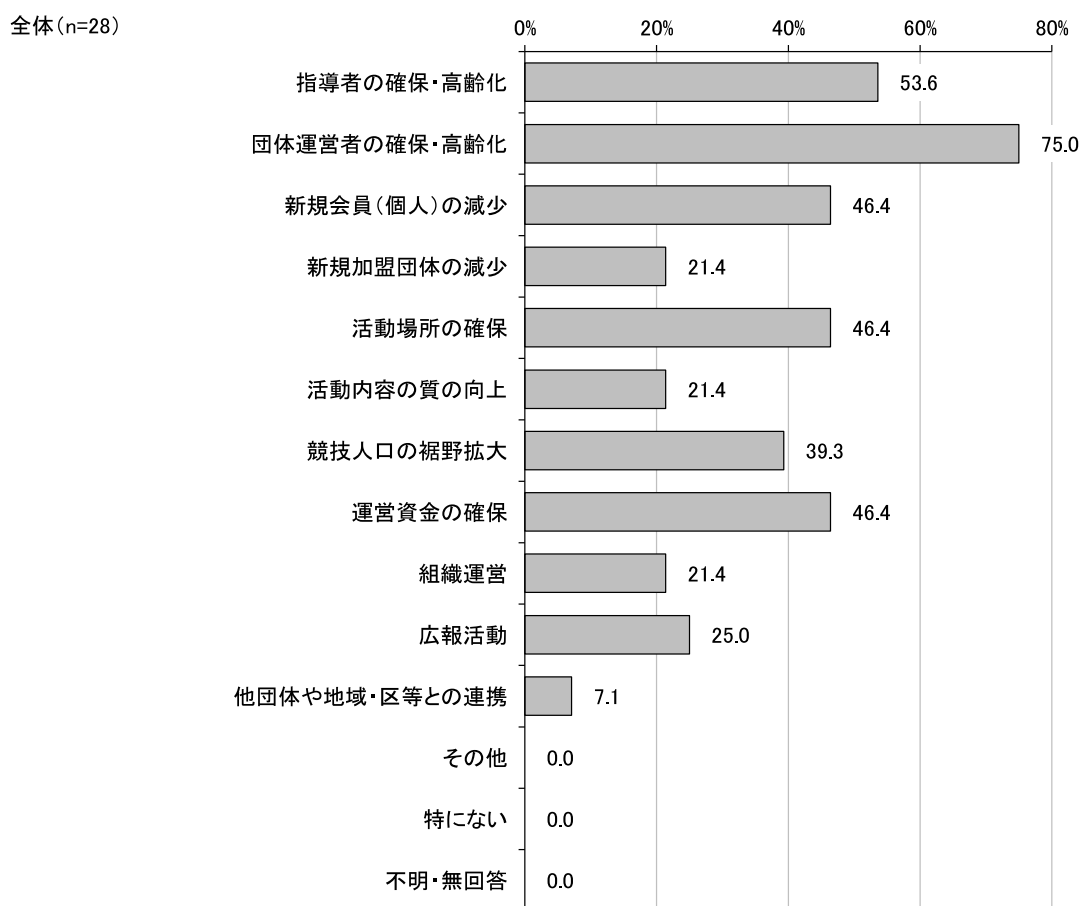
(7)スポーツ関係団体における活動上の課題

運営者や指導者など支える人材の確保をはじめ、様々な課題感が生じている

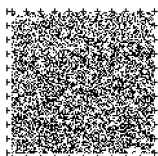
スポーツ関係団体において、活動上の課題として挙げられている内容は、「団体運営者の確保・高齢化」が75.0%と最も高く、次いで「指導者の確保・高齢化」が53.6%となっており、支える活動の担い手の確保を中心に幅広い事項が課題視されています。

また、地域や区、他団体等と連携を深めたいと回答した団体も35.7%となっており、連携の推進も求められています。

■団体における活動上の課題(複数回答)



※団体調査

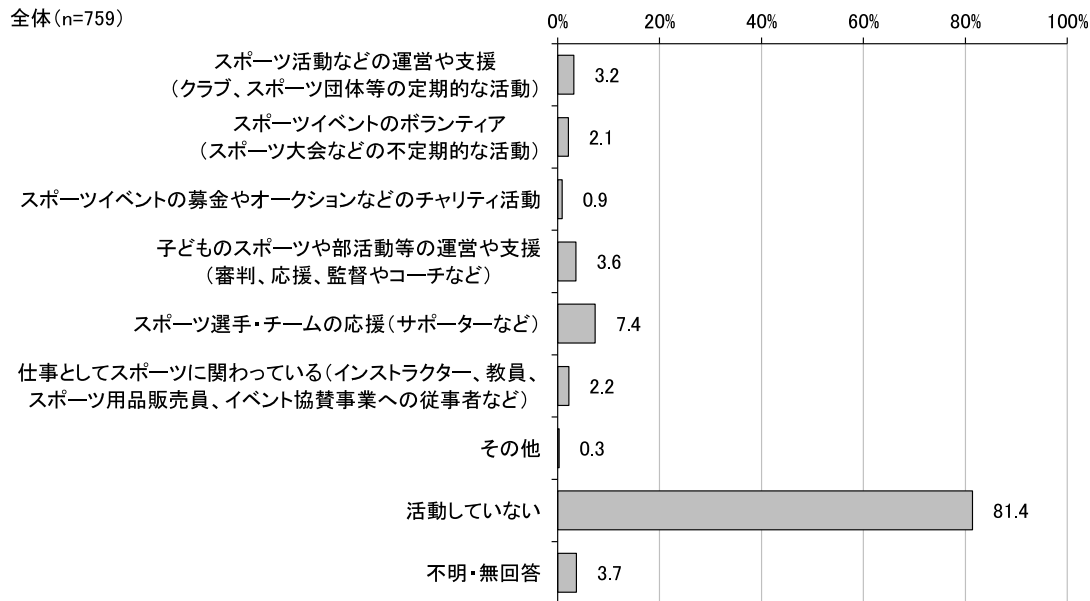


## (8)支える活動に関する状況

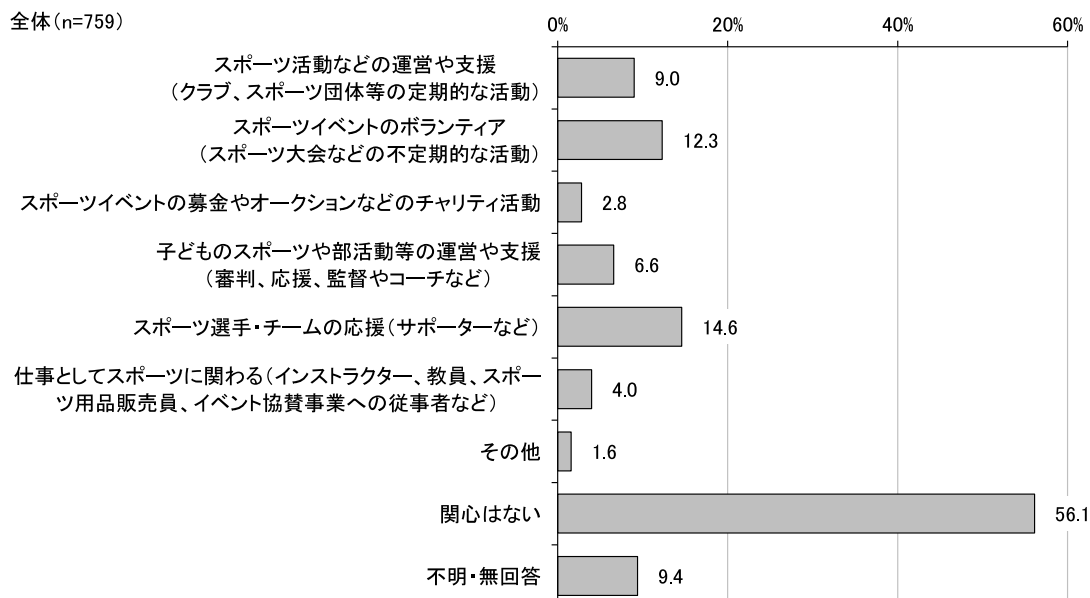
関心のある割合に比べて、実施状況は低調

支える活動の直近1年間の非実施率は81.4%と高い一方、関心がない割合は56.1%にとどまっています。具体的な活動別にみると、特にイベントのボランティアは、関心のある割合が直近1年間の実施率を10ポイント以上上回っており、関心があっても実際の活動に結び付いていない状況です。

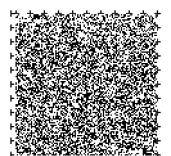
### ■直近1年間に実施した支える活動(複数回答)



### ■関心のある支える活動(複数回答)



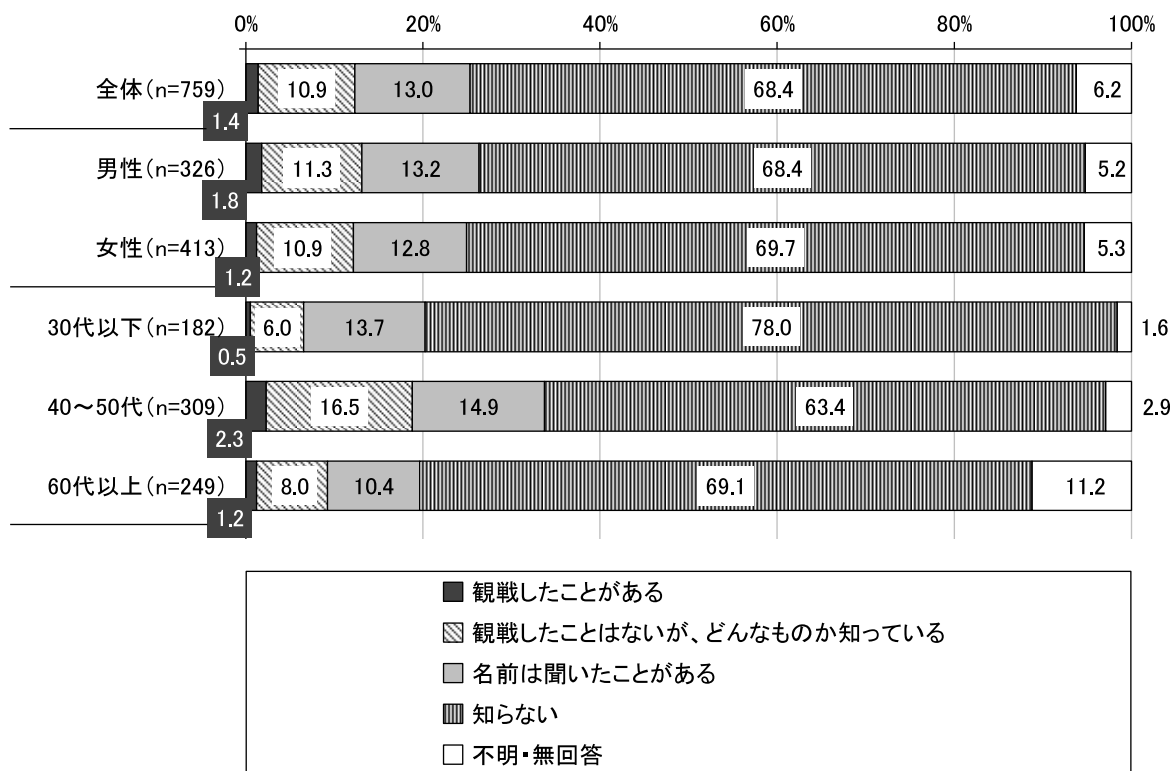
※区民調査



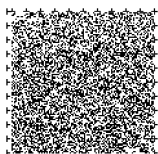
ホームタウン・スポーツチームの観戦体験がある方は限定的

区のホームタウン・スポーツチームであるフウガドールすみだについて、観戦体験率は1.4%と限定的な状況です。また、「知らない」と答えた割合が68.4%と高く、特に30代以下では78.0%となっています。一方で、前ページのグラフのとおり、スポーツチームの応援に関心を持つ層も14.6%と一定以上存在しており、関心のある割合に比べて観戦体験率や認知度は低調な状況です。

■ 区のホームタウン・スポーツチーム(フウガドールすみだ)への接触・認知状況



※区民調査



## 4 本区のスポーツ推進における課題のまとめ

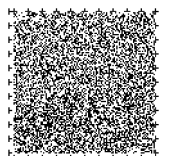
### 誰もがスポーツに親しみ、楽しめる環境について

- 区内の小中学生においては、運動やスポーツをすることがきらいという層が一定以上存在しており、特に小学生より中学生、男子より女子で、その割合が高い状況です。子どもの頃のスポーツの実施状況は、その先のスポーツへの関わり方にも影響を及ぼしうることから、子どもがスポーツに親しみ、楽しめるような取組が求められます。
- 20～50代の働き盛り世代・子育て世代においては、時間やきっかけがないことが、スポーツを行う上での支障となっており、ライフスタイルに配慮した機会の設定が求められます。また、特に30代以下の若年層では、どこで何ができるかよくわからないことも実施の上で支障となっています。
- 60代以上においては、スポーツを比較的高頻度で実施している層と、全く実施していない層とで、二極化が生じている状況です。また、実施頻度が低い層では、その理由として身体面の不安等が挙げられています。体を動かすことは、健康寿命の延伸や介護予防の点からも重要であるため、不安なく取り組める機会の提供が求められます。
- スポーツをする上での取り組み方には、気軽に親しみ楽しむというものだけでなく、自身の能力や競技力の向上を目指すという取り組み方もあることから、そのための環境整備等も重要です。
- 区でスポーツが盛んになるためには「場所や施設の整備」が大切との声が多い一方、各施設の認知度は必ずしも高くない状況です。整備の方針を適切に検討することに加え、区内のスポーツ環境について区民が把握できるよう工夫することが求められます。

本計画では、

#### 基本目標1 「誰もがスポーツに親しみ、楽しめる環境の整備」

における施策(P38～)を通して、課題に対応していきます。



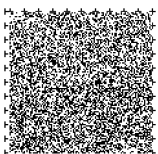
## 障害の有無にかかわらずスポーツを楽しめる環境について

- 障害のある方においては、スポーツを比較的高頻度で実施している層と、全く実施していない層とで、二極化が生じている状況です。実施頻度が低い層では、その理由として身体面の不安等が挙げられており、障害の種類・程度、スポーツを行う目的に応じて不安なくスポーツを楽しめる機会づくりが求められます。
- 障害のある方の意見として、スポーツを行う上で必要なものは「障害者が利用できるスポーツ施設」との声が多くなっています。一方、実施の上での支障としては、特に若年層において、どこで何ができるかわからないことが挙げられています。整備の方針を適切に検討することに加え、区内のスポーツ環境について障害のある方が把握できるよう工夫することが求められます。
- 障害のある方においては、スポーツを行う上で必要なものとして各種の支える活動が挙げられています。実施時の介助だけでなく、施設までの移動の手助けや指導者の確保など、多方面から支える活動が必要視されており、そうした活動を担う人材の育成が求められます。
- 障害者スポーツを体験したことがない方は、障害のある方の中でも多く、その他の区民においてはほとんどが体験していない状況です。障害の有無にかかわらず障害者スポーツに親しんでもらうことで、相互理解を深め、障害の有無を超えたつながりの形成や、共生社会の推進に向けて、障害者スポーツの普及・啓発が求められます。

本計画では、

**基本目標2 「障害の有無にかかわらずスポーツを楽しめる環境づくり」**

における施策(P46～)を通して、課題に対応していきます。



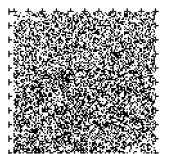
## スポーツを支える活動について

- スポーツ指導者の果たす役割は大きく、部活動の地域移行等も生じている中、その確保はスポーツ推進の上で一層重要となっています。また、スポーツ事故を防ぐ体制、スポーツ・インテグリティなど、様々な視点での資質向上も必要であり、情報提供等を通じた指導者の育成が求められます。
- 地域のスポーツ推進において重要な役割を担うスポーツ関係団体においては、運営者の確保をはじめとして様々な活動上の課題が生じており、また、区や他団体等との更なる連携も望まれている状況です。会議等における情報共有や活動への支援、また各種の事業における積極的な連携が求められます。
- スポーツを支える活動の実施状況は低調な一方、何らかの支える活動に関心のある方は一定以上存在しています。特にイベントボランティアについては、関心がある割合を、実施した割合が大きく下回っており、関連した活動機会の提供・活躍の場づくりが求められます。

本計画では、

### 基本目標3 「スポーツを支える人・団体が活躍できる場づくり」

における施策(P50～)を通して、課題に対応していきます。





## スポーツを通じた地域交流について

- スポーツは、人と人の絆を深め、地域のつながりやにぎわいといったものの創出を通して地域力を高める効果が期待されるものであり、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーや区内施設など、地域資源を活用したイベントによるにぎわい創出が求められます。また、こうしたイベントが、スポーツに関心がない層もスポーツに関わる入口となるよう、他分野と連携したイベントとするなどの工夫も重要です。
- 本区では、本区をホームタウンとするスポーツチームや、区内企業のスポーツチームなどが活躍しており、区の重要なスポーツ資源となっていますが、観戦したことのある区民の割合は限定的であり、また、そうしたチームを知らないという方も多い状況です。一方、スポーツチームの応援に関心を持つ層もいる状況であり、観戦や交流の機会創出をはじめとした一層の連携を通して地域スポーツを推進していくことが求められます。
- スポーツは、区内だけでなく、国内外の他都市とのつながりも創出するものであり、都市間のスポーツ交流は区外の方に墨田区を知ってもらうことや地域の活性化にもつながります。また、青少年においては、区を越えた活躍の機会があることで、競技力向上にもつながります。こうした効果を発揮できるよう都市間のスポーツ交流を図ることが重要です。

本計画では、

### 基本目標4 「“すみだ”のスポーツ資源を通じた地域交流の促進」

における施策(P54～)を通して、課題に対応していきます。

